

開催報告

イブニングセミナー

7月18日(水)「皮膚疾患のcommon disease」

皮膚科副部長／八木 洋輔

8月30日(木)「難治性喘息に挑み、そして克服する」

呼吸器内科部長／出村 芳樹

当院では、日常診療に役立つ最新の話題や、各科での現在の取組み等についてご提供させていただくため「イブニングセミナー」を開催しております。7月と8月には上記のテーマで開催いたしました。当日は院外から多くの先生方にご出席いただき、「今後の診療に活用できる」「今後の診療に役立てたい」とのご意見をいただきました。今後も、先生方に役立つ話題提供に努めますので、次回開催時も、引き続きご参加くださいますようよろしくお願いいたします。



第1回地域医療連携交流会

9月13日(木)

講演Ⅰ／「AMI患者の糖尿病管理について」

循環器内科副部長／血澤 克彦

講演Ⅱ／「膵がんへの集学的治療“過去・現在そして未来”」

副院長兼外科部長／廣瀬 由紀

9月13日(木)に丹南地域での地域医療連携交流会を開催しました。院内外を含め51名の先生方にご参加いただきました。会場からは多くのご質問をいただき、大変有意義な会でした。ご参加いただいた先生方、誠にありがとうございました。



「母体急変時の初期対応」についての講習会

「日本母体救命システム普及協議会(J-CIMELS)」は、我が国の妊産婦死亡の一段の低下を目指している組織です。産婦人科医師や助産師だけでなく、救急医、麻酔科医、コメディカル等との協働及びそのための実践教育が重要とし、あらゆる職種との周産期医療関係者に標準的な母体救命法を普及させることを目的として、母体救命システム普及のための講習会の企画・運営を最重要活動としています。

去る7月28日(土)、29日(日)の2日間、福井赤十字病院において、妊産婦・産褥婦における心肺蘇生法等など母体急変時の初期対応についての講習が、J-CIMELSの講師を招いて開催されました。1回4時間のプログラムで、参加者は、「とても身に付く講習会で、インストラクターの先生には大変熱心に指導していただき、明日からの実践に活かせる」と充実ぶりを語っていました。

当院の田嶋産婦人科部長は、講習会の運営やインストラクターとして参加し、「福井県の医療従事者が母体救命のノウハウを十分に理解し、どのような状況でも落ち着いて母体の救命処置ができるようになるよう自分も貢献していきたい」としています。



行事予定

第2回地域医療連携交流会

日時／平成30年11月21日(水) 19:00～

会場／ザ・グランユアーズフクイ

講演Ⅰ／「悪性疾患に対する消化管ステント留置術の現況と進歩」

消化器内科副部長／松永 心祐

講演Ⅱ／「泌尿器がん治療の最前線」

腎臓・泌尿器科部長／河野 真範

※学術講演会終了後、意見交換会を予定しております。

地域がん診療研修会

日時／平成30年11月9日(金) 18:30～19:40

会場／栄養管理棟3階講堂

講師／認定NPO法人マギーズ東京 共同代表理事

鈴木 美穂さん

内容／「がんになっても自分らしく～マギーズ東京とわたし～」

+ 福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30、土曜 8:30～12:30

TEL 0776-36-4110 (直通)

FAX 0776-36-0240 (専用)



<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>

e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第68号発行 平成30年10月 福井赤十字病院



Partner

福井赤十字病院連携通信〈パートナー〉

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.068 平成30年10月発行



「葛沼」撮影／初期臨床研修医師 写真部 宇佐美 尚

Topics 院内デイケアの取り組みについて

当院の入院患者さんのうち、75歳以上の方が占める割合は45%を超えています。超高齢社会の中、今後もさらに高齢化は進み、そうすると手術や検査に伴う、せん妄発症や転倒事故などのリスクが高くなることが予測されます。

当院では、このような患者さんのADL低下を予防し、療養生活の活性化を図り、QOLの維持向上を目指すために、平成30年4月より院内デイケアを開催しています。

院内デイケアは、TQM委員会の専門部会の1つである認知症ケア部会の活動であり、作業療法士と看護師が担当して開催しています。

参加者は、簡単な体操やゲームなどのレクリエーションを通して、楽しく過ごされています。時々、面会に来られたご家

族の方も、一緒に参加していただくこともあります。ベッドを離れて穏やかに過ごされることで、患者さんやそのご家族より「楽しかった」「お母さんが笑っている」などの意見があり、参加者の精神的な安定も図れることを実感しています。

現在の運用は週2回の午後のみですが、今後はさらに回数や時間を延長して、活動を拡大していきたいと考えています。



認知症ケア部会 院内デイケアチーム

小児科の紹介



小児科 部長
渡邊 康宏

連携医の先生方には、当院小児科の診療にご理解、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。当院小児科は、新生児から思春期までのお子さんの、幅広い疾患に対応できるように福井大学医学部付属病院とも連携をとって診療を行っています。中でも、当院で行っていますアレルギー外来、特に食物アレルギーに対する経口負荷試験についてご紹介いたします。

今日、食物アレルギーの対応は、「必要最小限の抗原除去」を行うことが大切とされています。血液検査(RAST;アレルゲン特異的IgE検査)は偽陽性が多く、この結果をもって食物除去を行うと、本当は摂取可能なままで不必要に制限してしまうことになります。

このため当科では、経口食物負荷試験を行い、本当に摂取できないのかどうか、もし少量でも摂取可能であればその閾値はどのくらいかを判定し、正確な診断に努めています。少量でも摂取可能とわかれば、患者さんには普段から閾値の範囲内で摂取していただき、免疫寛容を導き将来の食物除去の解除につながっていくように指導しています。

一方、経口食物負荷試験にはアナフィラキシーを起こ

すリスクもあり、嚴重な経過観察が必要で、アレルギー症状が出現したときは、迅速で的確な対応を行うことが重要です。

当院は平成29年から日本アレルギー学会認定のアレルギー専門教育研修施設に指定され、平成29年度は55件の経口食物負荷試験を実施しました。今年度はそれを上回るペースで負荷試験を行っており、特にアナフィラキシーを起こした既往のある児や、低年齢の児では入院していただき、嚴重な観察ができる体制で行っています。

先生方には、食物負荷試験が必要な患者様がおられましたら、当科へご紹介いただければ幸いです。負荷試験結果をご報告させていただきますので、引き続きフォローアップをお願いいたします。

その他、気管支喘息、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、腎炎・ネフローゼ、夜尿症や学校検尿異常などの腎疾患、てんかんなどの神経疾患の診療にも力をいれており、地域医療に貢献してまいりたいと考えています。

先生方には、今後もご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

<当科医師紹介>



部長/渡邊 康宏
専門/小児神経、小児科全般
資格/日本小児科学会専門医・指導医



副部長/玉村 宗一
資格/日本小児科学会認定小児科専門医・指導医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、ICD制度協議会認定 インフェクション・コントロールドクター(ICD)、日本周産期新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース(Aコース)インストラクター、日本旅行医学会認定医



医師/野村 詠史



医師/前田 夢吉



医師/宮永 光次

妊孕能に配慮した 卵巣腫瘍手術



産婦人科 部長
田嶋 公久

卵巣の良性腫瘍は、ほとんどが腹腔鏡下で手術されるようになりました。当科では、年間約100件の卵巣良性腫瘍の腹腔鏡下手術を行っています(図1)。手術の対象疾患トップ3は、嚢胞腫脹、奇形腫、子宮内膜症性嚢胞です。特に子宮内膜症性嚢胞は、今後の妊娠を希望する若い女性の間で増加傾向にあり問題となっています。最近では、卵巣の手術の際に、将来の妊娠する能力を損なわないように十分配慮することが強調されるようになり、当科でも術式の工夫を行っています。

妊娠する能力、すなわち妊孕能(にんようのう)に配慮が必要とされるようになった理由は、卵巣術後に卵胞数が減少してしまう可能性が明らかになったことです。特に、再発をしばしば認める内膜症性嚢胞では、手術を繰り返すことで卵胞数が著しく減少してしまうリスクがあります。このため、手術療法と薬物療法を組み合わせ、手術回数を最小限とすることがまず重要となります。

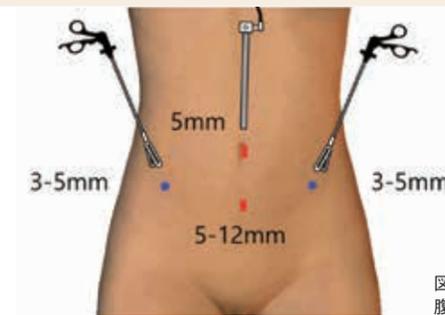


図1:良性卵巣腫瘍の腹腔鏡下手術セッティング

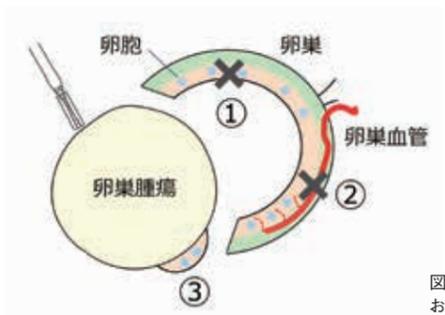


図2:卵巣腫瘍手術における卵胞喪失リスク

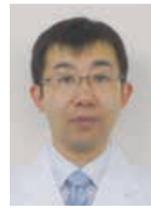
また、最近では、どのような手術操作が、卵胞にダメージを与えるのが明らかになってきました。卵胞数減少につながる手術手技として、止血時の熱凝固が最も問題となります。熱凝固によって、①卵胞に直接ダメージが与えられる他、②血管凝固から血流障害をきたし卵胞発育の障害をきたす可能性があります。また、③病変除去の際に、周囲の正常組織も失われることがあります(図2)。

私たちは、これらの知見に基づいた、卵胞に優しい手術を心がけています。止血時の熱凝固を最小にする他、凝固後の組織冷却を行います。さらには、病変除去時に正常組織が失われないように、剥離層が正しいかを術後に病理学的に検討し、手術にフィードバックしています。このように、将来妊娠を希望される女性のQOLを高める卵巣手術を私たちは追及したいと考えています。

<当科医師紹介>



部長/田嶋 公久
資格/日本産婦人科学会専門医、日本受精着床学会評議員、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、福井大学医学部臨床教授、福井県医師会母体保護法指定医師



医師/服部 克成
資格/日本産科婦人科学会専門医、福井県医師会母体保護法指定医師



部長/辻 隆博
資格/日本産婦人科学会専門医・認定医、日本医師会認定産業医、日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、福井県医師会母体保護法指定医師



医師/佐藤 久美子
資格/日本産婦人科学会産婦人科専門医、日本周産期・新生児医学会周産期専門医



部長/福田 真
資格/日本産科婦人科学会産婦人科専門医、日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医、日本生殖医学会生殖医療専門医、福井県医師会母体保護法指定医師、日本医師会認定産業医



医師/井上 大輔
資格/日本産婦人科学会専門医、緩和ケア研修会 修了